連続式MIカウンタは、次の(a)から(e)までに従って、作動するものとする。

(a)　ゼロから開始するときは、連続式MIが作動したら直ちにカウントを開始するものとする。

(b)　連続式MIが作動を停止したときは、作動を停止し、現在値を保持するものとする。

(c)　３回以内の作動シーケンス中に連続式MIを作動させる異常が検知された場合は、以前に保持したポイントからカウントを継続するものとする。

(d)　カウンタが最後に保持されてから３回の作動シーケンスを経過した後に、連続式MIを作動させる異常が検知された場合、再度ゼロからカウントを開始するものとする。

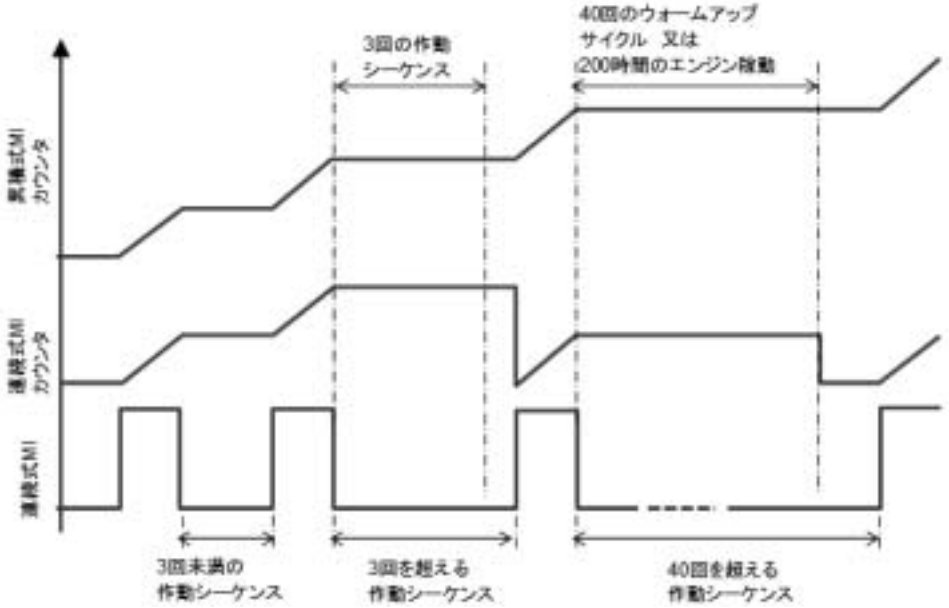
(e)　次の場合、ゼロにリセットされるものとする。

(i)　カウンタが最後に保持されてから、40回のウォームアップサイクル又は200時間のエンジン稼動のいずれか早い方までに連続式MIを作動させる故障が検知されなかった場合

(ii)　スキャンツールからOBDにOBD情報を消去するよう命令が出された場合

連続式MIカウンタの原理を図３に、そのロジックの例を別紙２に示す。

図３　MI　カウンタの作動原理



2.5.5.1.2.　累積連続式MIカウンタ

OBDは、連続式MIが作動する間、エンジンの累積作動時間数を記録するための累積連続式MIカウンタを備えるものとする。

累積連続式MIカウンタは、１時間の分解能で２バイトカウンタによって得られる最大値までカウントし、その値を保持するものとする。

累積連続式MIカウンタは、エンジンシステム、スキャンツール又はバッテリが外れたことによってゼロにリセットされないものとする。

累積連続式MIカウンタは、次の(a)から(c)までに従って、作動するものとする。

(a)　連続式MIが作動したとき、カウントを開始するものとする。

(b)　連続式MIが作動を停止したとき、カウントを停止し、現在値を保持するものとする。

(c)　連続式MIが作動したとき、以前に保持した時点からカウントを継続するものとする。

累積連続式MIカウンタの原理を図３に、そのロジックの例を別紙２に示す。

2.5.5.2.　クラスＢ１故障に関するカウンタ

2.5.5.2.1.　単一Ｂ１カウンタ

OBDは、クラスＢ１故障が存在する間のエンジン作動時間数を記録するためのＢ１カウンタを備えるものとする。Ｂ１カウンタは、次の(a)から(c)までに従って、作動するものとする。

(a)　クラスＢ１故障が検知され、本故障コードが保存されたら、直ちにカウントを開始するものとする。

(b)　クラスＢ１故障が確認されない、又は全てのクラスＢ１故障がスキャンツールによって消去されたとき、停止し、現在値を保持するものとする。

(c)　３回以内の作動シーケンス中に次のクラスＢ１故障が検知されたとき、以前に保持した時点からカウントを継続するものとする。

エンジン稼働時間数が200時間を超えた場合において、クラスＢ１故障が確認されない、又は全てのクラスＢ１故障がスキャンツールによって消去されたときは、OBDは、エンジン作動時間数が190時間になるようにＢ１カウンタを設定するものとする。３回以内の作動シーケンス中に次のクラスＢ１故障が検知されたときは、Ｂ１カウンタは190時間からエンジン作動時間数のカウントを再開するものとする。

３回の連続した作動シーケンスにおいて、クラスＢ１故障が検知されなかった場合には、Ｂ１カウンタはゼロにリセットされるものとする。

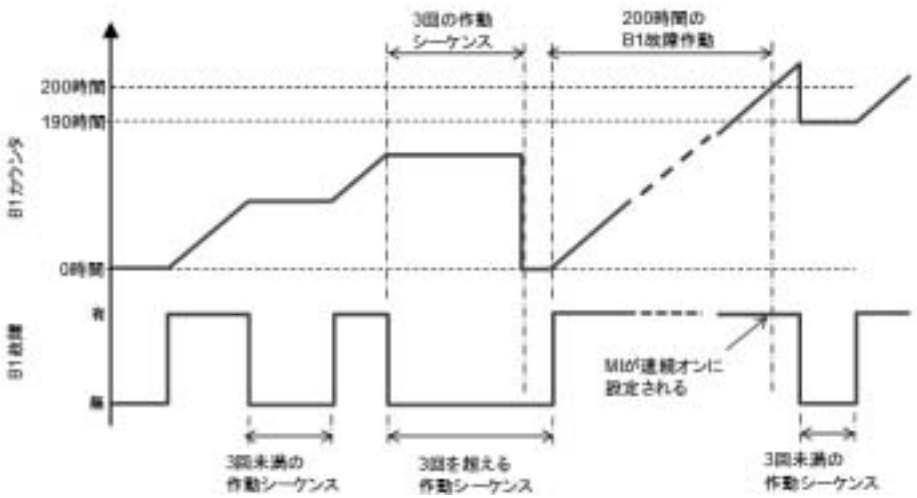
注　Ｂ１カウンタは、単一のクラスＢ１故障のエンジン作動時間数は示さないものとする。

Ｂ１カウンタは、異なる２つ以上のクラスＢ１故障について、いずれの故障も単独ではカウンタが示す時間に達していなくてもこれらの時間数を累積することができる。

Ｂ１カウンタは、連続式MIが作動しなければならない状態を決定することを目的とする。

Ｂ１カウンタの原理を図４に、そのロジックの例を別紙２に示す。

図４　Ｂ１カウンタの作動原理



2.5.5.2.2.　多重Ｂ１カウンタ

自動車製作者等は、多重Ｂ１カウンタを使用することができる。この場合において、システムはそれぞれのクラスＢ１故障に特定のＢ１カウンタを割り当てることができるものとする。

特定のＢ１カウンタの制御は、2.5.5.2.1.に従うものとし、それぞれのＢ１カウンタは割り当てられたクラスＢ１故障が検知されたとき、カウントを開始するものとする。

第三種郵便物認可　平成二十五年三月三十一日